

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-106
研究課題名	胃酸分泌能を評価する血清ペプシノーゲン値のカットオフ設定に関する検討
研究期間	西暦 2013年 7月（倫理委員会承認後）～ 2014年 6月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 _____） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（過去のデータの再解析 _____）
上記材料の採取期間	西暦 1995年 4月～ 2013年 5月
意義、目的	<p>胃液検査で胃酸分泌のレベルを知ることは、種々の上部消化管疾患のリスクを評価するうえで有用であるが、汎用性に問題がある。我々の研究結果から、血清ペプシノーゲン値は、胃酸分泌をある程度反映することが示されている($r=0.6$)。血清ペプシノーゲン値の測定は、空腹時に採血をするだけであり、血清ペプシノーゲン値で胃酸分泌をある程度評価することができれば、臨床的有用性は高いと考えられる。</p> <p>今回の検討では、我々のこれまでの胃酸分泌、血清ペプシノーゲン値に関するデータを再解析し、胃酸分泌のレベルを反映する血清ペプシノーゲン値のカットオフ値を設定し、その血清ペプシノーゲン値が種々の上部消化管疾患のリスク評価に有用であるかを検証することを目的とする。</p>
方法	<p>内視鏡検査で潰瘍、癌などの器質的異常を認めなかった症例での内視鏡的胃液検査の結果は、$\text{mean} \pm \text{S.D.} = 3.6 \pm 1.5 \text{ mEq/10min}$ であり、これをもとに $2.1 (\text{mean} - 1\text{S.D.}) \text{ mEq/10min}$ 未満を低酸分泌者、$5.1 (\text{mean} + 1\text{S.D.}) \text{ mEq/10min}$ 以上を高酸分泌者と分類し、種々の上部消化管疾患のリスク評価に有用であることを報告してきた。今回の再解析では、ROC (Receiver Operating Characteristic)解析を行い、低酸分泌者、高酸分泌者を識別する最もよい血清ペプシノーゲン値のカットオフ値を確定し、その条件での感度、特異度を算出する。さらに、その結果得られた血清ペプシノーゲン値による胃酸分泌予測が、種々の疾患のリスク評価であったかと retrospective に解析する。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院消化器内科 講師 飯島克則 住所 〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1 電話 022-717-7171 FAX 022-717-7177